

## 【主な出来事】

- 10月30日の大統領選挙に向け、各候補は立候補登録のための支持署名集めを開始。
- サンドウ「行動と連帯」党首とナスタッセ「尊厳と真実」党首の間における統一候補擁立交渉は進展無し。

## 1. 内政

### 大統領選に向けた動き

#### ▼5日、サンドウ「行動と連帯」党首発言。

・レアンカ欧州人民党党首が首相時代にサンドウ党首に対し、プラホトニク氏はモルドバの近代化を可能にする人物であるとして、同氏を批判しないよう求めたことを暴露。

#### ▼5日、ナスタッセ「尊厳と真実」党首発言。

・レアンカ党首、ギンプ自由党党首及び共産党・自由民主党脱退議員らは全てプラホトニク氏の囚われであるとした。

#### ▼6日、ヴォロニン共産党党首発言。

・大統領直接選挙制への回帰を決めた3月4日の憲法裁判決は違法であるとして選挙ボイコットを呼びかけ。

・「尊厳と真実」、社会党及び「我らの党」は早期議会選挙を求めているにも拘わらず早々に大統領選への候補擁立を決定したとして、これらの党を批判。

#### ▼7日、ウサウイ「我らの党」党首発言。

・プラホトニク氏はレアンカ欧州人民党党首を次期大統領と目しており、いずれかの時点でルプ民主党党首を大統領選から撤退させるだろうと述べた。

#### ▼大統領候補の登録状況。

・立候補登録に必要な署名(1.5万～2.5万件)集めに向け24イニシアティブ・グループが登録。うち14が独立候補。

・3日、ルプ民主党党首は必要な署名集めを終え、立候補登録された。ナスタッセ「尊厳と真実」党首は右登録に係る手続違反を理由に中央選管に不服申し立て。

・13日、ギンプ自由党党首も立候補登録を完了。

### 政府

#### ▼7日、フィリップ首相発言。

・モルドバの国家計画は明確に「欧州統合」であり、発展と繁栄に向けた唯一の方途。モルドバは独立国家であるが、トランスニストリア問題、貧困、移民といった内的・外的弱点を抱えている。

・自身の首相就任後に達成した最大の点は安定化であり、IMFとの合意達成、EUロードマップの実施、ルーマニア財政支援の再開などを果たした。

### 議会

#### ▼9日、議会はモルドバ独立25周年記念行事実施。

・カンドウ議長は、今日のモルドバの国家プロジェクトはEU統合であると強調。

### 10億ドル不正銀行送金事件関連

#### ▼7日、プラトン氏(ウクライナで逮捕され、8月末にモ

#### ルドバに移送)の主張は以下の通り。

・盗まれた資金はプラホトニク氏が受け取った。カンドウ議会議長及びドラグチャヌ中銀総裁(当時)も関与。ガブリチ首相及びレアンカ首相(いずれも当時)は銀行への国家保証を与える形で不正を支援。ショール氏の役割は限定的。

### その他

#### ▼キルトアカ市長解任レファレンダムを巡る動き。

・キシニョフ市議会において社会党・欧州人民党議員がキルトアカ市長(自由党第一副党首)解任の動きを見せていることに関し、ギンプ自由党党首は反発、5日、与党連合と欧州人民党との協力合意(7月29日)への署名を撤回した。

・13日、市議会にてキルトアカ市長解任レファレンダム実施に係る採決を行うも、自由民主党及び民主党議員の欠席により必要票が得られず、否決。

## 2. 外政

#### ▼11日、ハセスク元ルーマニア大統領発言。

・ロシアの反対により、モルドバは今後最低20～30年間はEUに加盟することはできないだろうとした。

#### ▼12日、カルムイク経済大臣は北京訪問。

・本年末までに両国の自由貿易協定交渉を開始することで合意した。

#### ▼13日、ハンガリー外務・貿易相の来訪。

・ガルブル外相らと会談、改革、EU統合、農業等につき協議した。

## 3. 経済

#### ▼9日、カルムイク経済大臣発言。

・エネルギー安全保障はモルドバ政府の優先課題の一つであり、最近ルーマニアとモルドバの間で両国の天然ガス・電力網接続に係る共同行動計画策定につき合意したとした。

#### ▼12日、財務省は今後4年間の経済予測を発表。

・GDP成長率は2016年+2%、17年+3%、18年+3.5%、19年+3.5%。インフレ率はそれぞれ+6.8%、+4.4%、+4.9%、+5%。

・歳入は対GDP比35～36%強、歳出は同38～39%強で推移の見込み。国家債務は2016年の42%から2019年には44.9%に増える見通し。

### 経済協力

#### ▼EUによる対モルドバ支援。(1日報道)

・欧州会計監査員(ECA)の報告によると、2007～2016年の対モルドバ財政支援の総額は782百万ユーロ。他方で、モルドバの「政治的意思」の欠如により、想定したほどの成

果は上がらなかったと評価された。

#### ▼ルーマニアによる保育園改修支援。(9日報道)

・832保育園の改修のために23百万ユーロを拠出しており、保育園2つに1つが恩恵を受けている計算に。本年末までに更に3百万ユーロを拠出する予定。

### 4. トランスニストリア

#### ▼6日、「ト」財務省は2017年予算案策定。

・「歳入」は23.8億ルーブル、「歳出」は40.8億ルーブル。  
・インフレ予測2%、対ドルレート12.5ルーブルで算出。

#### ▼7日、シェフチュク「大統領」は、「2006年のレファレンダムの結果の実行に関する」大統領令に署名。

・「ト」とロシアの法制の完全な調和を求めた。議会は反発。

#### ▼11日、「ト」大統領選挙(12月11日)に向けた選挙活動開始。

・登録されている有権者数は41.7万人との由。

### 5. その他の情勢

#### ▼8日、バラン・モルドバ安全保障・情報局長官発言。

・国際テロリストはモルドバをトランジット国として使うことへの関心を高めているとした。

#### ガガウズ自治区

#### ▼9月5日、ガガウズ人民会議の投票日を決定。

・投票日は本年11月20日に決定された。

### 6. 各種統計

#### ▼モルドバ人の平均可処分所得。(5日報道)

・1,956.6レイ。

#### ▼モルドバ人の平均給与。(8日、労働省発表)

・2016年は5,050レイ、2017年は5,300レイの見通し。

#### ▼世論調査結果。(15日発表)

・社会学者・人口統計学者連盟によるもの。

・投票態度を決定済みの回答者による大統領支持率は、ドドン社会党党首(36%)、サンドゥ「行動と連帯」党首(16%)、ナスタッセ「尊厳と真実」党首(14%)、ルプ民主党党首(12%)、レアンカ欧州人民党党首(8%)、チュバシエンコ「我らの党」候補(3.6%)、ギンプ自由党党首(1%)。

・期限前議会選挙が実施された場合の支持率は、社会党(25%)、「行動と連帯」党(13%)、民主党(11%)、「我らの党」(10%)、「尊厳と真実」党(9%)、共産党(8%)。

### 7. 対日関係

#### ▼6日、好井新駐モルドバ大使はティモフティ大統領に信任状を捧呈。

#### ▼7日、在モルドバ日本大使館は開館記念レセプションを実施。

・滝沢外務大臣政務官の他、モルドバ側からティモフティ大統領らが出席。

#### ▼14日、モルドバ科学アカデミーは、三村秀典静岡大学教授にメダルを授与。

・同教授はナノエレクトロニクスの専門。

(了)